【地域資源・伊予市】 monta独言「伊予に吹く風」 http://monta.no-blog.jp/

持続可能な地域づくり「まち育て」を育む

門田 眞一
灘町・宮内邸を守る会

伊予市の中心市街地・郡中灘町は、寛永13年（1636）、町衆であった宮内家一族が開拓し計画的につくった特異な短冊状地割り、江戸時代の在郷町・港町の歴史と建物が奇跡的に残された町である。地域固有の歴史資源である町家・町並みを生かした「まちなか再生」をめざす「灘町・宮内邸を守る会」の活動は、今年で10年を迎えた。

「まちタンケン」など郡中小学校との総合学習、愛媛大学曲田清維研究室と連携した「郡中まちぐるみ博物館」マップづくりの経験も、まちの良さを再発見し、郷土への誇りや愛着・まちづくり意識を高めてきた。住民や子どもたちが、歴史的文化的価値のある環境や空間から感性豊かに学びあい、まちに働きかけながら自らも育っていくという「まち育て」の循環の中から、「住み続ける」ための居住環境や福祉、地域文化、コミュニティなど持続可能な地域づくりが可能になる。

栄養学のルーツ「佐伯矩博士顕彰碑」式典（栄養寺）

振り返れば80年代以降、町並み・景観、福祉・教育、産業・ツーリズムなど様々な地域活動を包括して「地域づくり」といわれるようになった。個々の活動が地域づくりの出発点ではあるが、「何のために、何をめざして」という理念・目標や「地域社会の担い手・主体は誰なのか」が曖昧なまま、活性化の名のもとにイベントの企画・発信に終始している事例も見受けられた。

住民の主体的な意欲・意識づくりという「まち育て」の原点に立ち返って、専門家と協力した地域調査と共同学習、現行制度の活用や計画の点検、具体的な提案、地域での実践という循環が持続的な地域づくりだと改めて思い始めている。

私たちの活動を反映して、中心市街地再生のために宮内邸を「歴史の拠点」とする整備計画が決められ、隣接した銀行跡地の取得に行政が動いた。栄養寺には「栄養学の創始者・佐伯矩博士顕彰碑」も建立された。歴史的環境の保全、福祉・医療、まちなか居住が促されるサスティナブル・コミュニティをめざして、わが町の「まち育て」を育んでゆきたい。